



# クラスタへの Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアの導入

リリース 3.10.1 から、Cisco Nexus Data Broker (NDB) の名前は、Cisco Nexus Dashboard Data Brokerに変更されました。ただし、GUIおよびインストールフォルダ構造と対応させるため、一部のNDBのインスタンスがこのドキュメントには残されています。NDB/Nexus Data Broker/Nexus Dashboard Data Brokerという記述は、相互に交換可能なものとして用いられています。

この章には、次の詳細が含まれています。

- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード \(3 ページ\)](#)
- [HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーションソフトウェアのアップグレード \(6 ページ\)](#)

## Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのインストール

Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) クラスタをインストールするには、次の手順に従います。

### 始める前に

前提条件：

- Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) は、3 ノードクラスタをサポートします。
- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信する必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を config.ini ファイルに持つ必要があります。

- クラスタを形成するには、すべての NDDB インスタンスが同じ NDDB バージョンである必要があります。
- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。**HA** クラスタのパスワード保護セクション（*Cisco Nexus Dashboard Data Broker Configuration Guide*）を参照してください。



(注) クラスタを形成するすべての NDDB インスタンスは、同じ NDDB バージョンである必要があります。

## 手順

- ステップ 1** Web ブラウザで、[www.cisco.com](http://www.cisco.com) に移動します。
- ステップ 2** 下方向へスクロールして、[ダウンロード（Downloads）] をクリックします。
- ステップ 3** [製品の検索（Select a Product）] 検索ボックスに「Nexus Dashboard Data Broker」と入力すると、最新リリースの[ソフトウェア ダウンロード（Software Download）] 画面が自動的に表示されます。  
リリース 3.10.5 のファイル情報：Cisco Nexus Data Broker ソフトウェア アプリケーション：  
`ndb1000-sw-app-k9-3.10.5.zip` が表示されます。
- ステップ 4** Cisco Nexus Data Broker アプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- ステップ 5** Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを作成します。  
たとえば、ホーム ディレクトリに、`CiscoNDB` を作成します。
- ステップ 6** 作成した NDDB ディレクトリに Cisco Nexus Data Broker の zip ファイルをコピーします。
- ステップ 7** Data Broker の zip ファイルを解凍します。  
Data Broker ソフトウェアが `ndb` というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。
  - `runndb.sh` ファイル：NDDB を起動するためのファイル。
  - `version.properties` ファイル：NDDB ビルドバージョン。
  - 構成ディレクトリ：NDDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている `startup` サブディレクトリが含まれます。
  - `bin` ディレクトリ：共通 CLI を含む NDDB ファイルが含まれています。
  - `etc` ディレクトリ：プロファイル情報が含まれています。
  - `lib` ディレクトリ：NDDB Java ライブラリが含まれています。
  - `logs` ディレクトリ：NDDB ログが含まれています。

(注)

logs ディレクトリは、NDDB アプリケーションの起動後に作成されます。

- plugins ディレクトリ : NDDB プラグインが含まれるディレクトリ。
- work ディレクトリ : Web サーバーの作業ディレクトリ。

**ステップ 8** ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

**ステップ 9** 任意のテキスト エディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>
```

```
If a standby node is available:
#supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ip4>-standby
```

**ステップ 10** スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDDB サーバーの IP で置き換えます。

```
IPv4 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1
```

```
IPv6 example:
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

**ステップ 11** ファイルを保存し、エディタを終了します。

**ステップ 12** NDDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 5 から 11 を繰り返します。

**ステップ 13** `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDDB サーバーを起動します。

**ステップ 14** プライマリ NDDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDDB サーバーを起動します。

プライマリが起動したら、GUI に表示される確認メッセージを待ってから、クラスタのメンバーを起動します。表示されるメッセージには、プライマリの準備ができており、メンバーを起動しますという意味のメッセージが表示されます。

## Cisco Nexus Dashboard Data Broker クラスタのアップグレード

始める前に

前提条件 :

- Cisco Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) は、3 ノード クラスタをサポートします。

- すべての IP アドレスは、到達可能で、相互に通信する必要があります。
- クラスタ内のすべてのスイッチは、すべてのコントローラに接続する必要があります。
- すべてのコントローラは、同じ HA クラスタリング設定情報を `config.ini` ファイルに持つ必要があります。
- クラスタを形成するには、すべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスが同じ Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。
- クラスタ パスワードを使用する場合、すべてのコントローラは同じパスワードを **ndbjgroups.xml** ファイルに設定する必要があります。 *Password Protecting for HA Clusters* のセクション（Cisco Nexus Data Broker Configuration Guide）を参照してください。



(注) クラスタを形成するすべての Nexus Dashboard Data Broker インスタンスは、同じ Cisco Nexus Dashboard Data Broker バージョンである必要があります。

## 手順

- ステップ 1 Cisco Nexus Dashboard Data Broker プライマリ サーバーにログインします。
- ステップ 2 [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Administration)] に移動します。
- ステップ 3 [ローカルでバックアップ (Backup Locally)] をクリックして、構成ファイルをダウンロードします。
- ステップ 4 **runndb.sh -stop** コマンドを使用して、すべての Cisco Nexus Dashboard Data Broker インスタンスを停止します。
- ステップ 5 NDDB サーバーと NDDB デバイスの間で TLS 証明書が有効になっている場合は、`/xnc/configuration` の `tlsTrustStore` および `tlsKeyStore` ファイルのバックアップを作成します。
- ステップ 6 すべての NDDB クラスタ インスタンスで前の手順を実行します。
- ステップ 7 Web ブラウザで、[www.cisco.com](http://www.cisco.com) に移動します。
- ステップ 8 [サポート (Support)] > [製品 (Products)] > [ダウンロード (Downloads)] に移動します。
- ステップ 9 製品とダウンロードの検索ボックスに「Nexus Data Broker」と入力し、検索応答リストから「ダウンロード (Downloads)」をクリックします。  
リリース 3.10.5 のファイル情報：Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェア アプリケーション：  
`ndb1000-sw-app-k9-3.10.5.zip` が表示されます。
- ステップ 10 Cisco Nexus Dashboard Data Broker のアプリケーションバンドルをダウンロードします。入力を求められたら、Cisco.com のユーザー名およびパスワードを入力して、ログインします。
- ステップ 11 Cisco Nexus Dashboard Data Broker をインストールする予定の Linux マシンにディレクトリを構築します。  
たとえば、ホーム ディレクトリに Cisco Nexus Dashboard Data Broker を構築します。
- ステップ 12 Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを、構築したディレクトリにコピーします。
- ステップ 13 Cisco Nexus Dashboard Data Broker の zip ファイルを解凍します。

Cisco Nexus Dashboard Data Broker ソフトウェアは、`ndb` というディレクトリにインストールされます。ディレクトリには、次の内容が含まれます。

- `runndb.sh` ファイル：NDDB を起動するためのファイル。
- `version.properties` ファイル：NDDB ビルドバージョン。
- 構成ディレクトリ：NDDB 初期化ファイルが含まれています。このディレクトリには、構成が保存されている `startup` サブディレクトリが含まれます。
- `bin` ディレクトリ：NDDB 共通 CLI を含む NDDB ファイルが含まれています。
- `etc` ディレクトリ：プロファイル情報が含まれています。
- `lib` ディレクトリ：NDDB Java ライブラリが含まれています。
- `logs` ディレクトリ：NDDB ログが含まれています。

(注)

`logs` ディレクトリは、NDDB アプリケーションの起動後に作成されます。

- `plugins` ディレクトリ：NDDB プラグインが含まれるディレクトリ。
- `work` ディレクトリ：Web サーバーの作業ディレクトリ。

**ステップ 14** ソフトウェアをインストールしたときに作成された `ndb/configuration` ディレクトリに移動します。

**ステップ 15** 任意のテキスト エディタを使用して `config.ini` ファイルを開き、次のテキストを見つけます。

**ステップ 16** 次のテキストを探します。

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
# supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>
```

```
If a standby node is available:
#supernodes=<ip1>;<ip2>;<ip3>;<ip4>-standby
```

**ステップ 17** スーパーノードで構成される行のコメントを外し、`<ip*>` を NDDB サーバーの IP で置き換えます。

IPv4 example:

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=10.1.1.1;10.2.1.1;10.3.1.1
```

IPv6 example:

```
# HA Clustering configuration (semi-colon-separated IP addresses of all controllers that are part
of the cluster.)
supernodes=2001:22:11::1;2001:33::44::1;2001:55:66::1
```

**ステップ 18** ファイルを保存し、エディタを終了します。

**ステップ 19** NDDB がインストールされているすべての Linux マシンで、手順 7 ~ 18 を繰り返します。

**ステップ 20** `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDDB サーバーを起動します。

**ステップ 21** プライマリ NDDB サーバーの GUI が起動したら、`./runndb.sh -start` コマンドを使用して他の NDDB サーバーを起動します。

**ステップ 22** プライマリ サーバーの NDDB GUI にログインします。

**ステップ 23** (3.9.x リリーストレインに適用) TLS 設定が使用可能な場合は、TrustStore と KeyStore ファイルを構成フォルダに移動します。

#### 重要

3.9.2 からアップグレードする場合、バックアップファイルには TLS ファイルが含まれています。

tlsconf、tlsKeyStore、tlsTrustStore ファイルはバックアップの一部です。

リリース 3.10.x または 3.9.0 からアップグレードする場合、バックアップファイルには tlsTrustStore、tlsKeyStore ファイルは含まれません。バックアップを復元する前に、/ndb/configuration フォルダにファイルを手動でアップロードする必要があります。移動するファイルは、処理する前に「tlsKeyStore」と「tlsTrustStore」という名前が付けられています。

**ステップ 24** [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] > [アクション (Actions)] > [ローカルで復元 (Restore Locally)] に移動し、以前にダウンロードした構成をアップロードします。

**ステップ 25** ./runndb.sh -stop コマンドを使用して、クラスタ内の NDDB のすべてのインスタンスを停止します。

**ステップ 26** ./runndb.sh -start コマンドを使用して、プライマリ NDDB サーバーを起動します。

プライマリが起動したら、GUI に表示される確認メッセージを待ってから、クラスタのメンバーを起動します。表示されるメッセージには、プライマリの準備ができており、メンバーを起動しますという意味のメッセージが表示されます。

プライマリが起動すると、メンバーサーバーの TLS ファイルが NDDB コントローラによって同期されます。

**ステップ 27** ./runndb.sh -start コマンドを使用して、メンバー NDDB サーバーを起動します。

## HA クラスタ化コントローラの TLS が有効になっているアプリケーション ソフトウェアのアップグレード

HA クラスタ化コントローラで TLS 証明書が有効になっている場合に、GUI を使用して Nexus Dashboard Data Broker (NDDB) アプリケーション ソフトウェアを集中モードでアップグレードするには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** https://server IP:8443 にアクセスして、既存の NDDB GUI インスタンスにログインします。

**ステップ 2** [管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Administration)] タブに移動します。

**ステップ 3** [ローカルでバックアップ (Backup Locally)] をクリックして、構成を zip ファイルとしてダウンロードします。

**ステップ 4** ./runndb.sh -stop コマンドを使用して、現在の NDDB インスタンスを停止します。

- ステップ 5** NDDB インスタンスが停止したら、`/ndb/configuration` フォルダに移動し、`tlsTrustStore` および `tlsKeyStore` ファイルを `local/common` フォルダにコピーします。
- ステップ 6** 標準の *Cisco.com* のダウンロードページから NDDB 3.10.5 ソフトウェアをダウンロードし、`config.ini` ファイルの「supernodes」構成を使用してクラスタモードを設定し、すべてのコントローラで `./runndb.sh -start` コマンドを使用して新しい NDDB 3.10.5 クラスタを起動します。
- ステップ 7** (3.9.x リリーストレインに適用) TLS 設定が使用可能な場合は、`TrustStore` と `KeyStore` ファイルを構成フォルダに移動します。

#### 重要

3.9.2 からアップグレードする場合、バックアップファイルには TLS ファイルが含まれています。  
`tlsconf`、`tlsKeyStore`、`tlsTrustStore` ファイルはバックアップの一部です。

リリース 3.10.x または 3.9.0 からアップグレードする場合、バックアップファイルには `tlsTrustStore`、`tlsKeyStore` ファイルは含まれません。バックアップを復元する前に、`/ndb/configuration` フォルダにファイルを手動でアップロードする必要があります。移動するファイルは、処理する前に「`tlsKeyStore`」と「`tlsTrustStore`」という名前が付けられています。

- ステップ 8** プライマリコントローラで、[管理 (Administration)] > [バックアップ/復元 (Backup/Restore)] タブに移動します。
- ステップ 9** [ローカルに復元 (Restore Locally)] をクリックして、先ほどダウンロードした設定ファイル (上記のステップ 3) をアップロードします。
- 設定が正常にアップロードされると、GUI に成功メッセージが表示されます。
- ステップ 10** `./runndb.sh -stop` コマンドを使用して、すべてのコントローラで NDDB 3.10.5 インスタンスを停止します。
- ステップ 11** `./runndb.sh -start` コマンドを使用して、プライマリ NDDB サーバーを起動します。
- 数分待ちます。準備完了 (*ready*) メッセージが表示されます。
- プライマリが起動すると、メンバーサーバーの TLS ファイルが NDDB コントローラによって同期されます。
- ステップ 12** `./runndb.sh start` コマンドを使用して、クラスタの他のコントローラで NDDB インスタンスを起動します。





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。